

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/6/12
NAIIV	No. 12
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協) (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

主 な 内 容

- 企画委員会 報告 1
- 第 2 3 回全国視覚障害者情報提供施設大会 6
開催要綱(案)
日程(案)
- 集中処理センター構想について 8
- ブロック活動報告 14

企画委員会 報告

部会長 川越 利信

平成9年度第1回企画委員会が、5月31日～6月1日、この9月に全視情協大会が開催される帯広市で行われ、NAIIV第11号(平成9年5月10日発行)で報告した平成9年度事業計画を前提に検討が進められた。

出席者、主な議題等は次の通り。

日 時 平成9年5月31日(土)～6月1日(日)
場 所 北海点字図書館
出席者 川越利信、後藤市郎、田中徹二、河村宏、小野俊己、
染谷洋子、村井晶人

- 議 題
1. 視覚障害者情報問題研究委員会について
 2. 視覚障害者情報ネットワーク・システムについて
 3. 第23回全視情協大会について
 4. 第45回全国盲人福祉施設大会（松江市）について
 5. DAISY報告
 6. サービス状況の調査報告について
 7. 全視情協大会開催会場視察、基本打ち合わせ
 8. JBS日本福祉放送による生中継放送について

【検討内容報告】

1. 視覚障害者情報問題研究委員会

（1）経過

平成9年1月28日に、厚生省福祉保健部社会参加推進室と全視情協（＝日盲社協情報サービス部会）との意見交換が持たれた。高度情報社会の中での視覚障害者情報提供施設（点字図書館）のあり方を考えるために、学識経験者なども交えて、視覚障害者の情報問題に関して幅広い視点から検討する場が必要であるとの認識で一致した。

その結果、3月9日に行われた企画委員会を経て、平成9年度の主な事業計画の一つとして「視覚障害者情報問題研究委員会」を設置・推進することになった。

（2）設置・推進の手順

今回の企画委員会では、川越部会長から委員候補者のリストが提示され、目的の確認、予算対策、推進の方法等について、自由に意見交換を行った。

今回の結論としては、次の通りの手順で進めることで合意した。

企画案の再提示（担当：川越）

企画委員、運営委員（日盲社協サービス部会評議員）に送付

企画案の修正、補完

企画案に基づいて、厚生省社会参加推進室と意見交換

企画案の最終確認

設置、推進

2. 視覚障害者情報ネットワーク・システム

今回の企画委員会では、掘り下げた議論はできなかった。ただ、技術の進展にともない、点字と音声を分離する考え方は、そろそろ改める段階にきているとの認識で一致した。

また、村井晶人 録音委員会委員長より、デジタル録音集中処理センター構想の提案が行われた。6月の日盲社協 島根大会、9月の全視情協大会などで議論を深めていく必要のあるテーマである。

3. 第23回全視情協大会

(1) 要綱、日程は6～7ページ参照。

(2) 分科会について

テ ー マ：視覚障害者情報ネットワーク・システム

第1分科会

テ ー マ：点字情報

企画担当：点訳委員会、ネットワーク委員会、てんやく広場

視 点：

- ・フルテキストによるオンラインネットワーク・サービスの構築。
- ・ノーマネット等、類縁機関のマルチメディア対応を進める。
- ・質を高め、量を増し、安定性・持続性・永久性のある仕組みを考える。
- ・現行サービスシステムの問題点を見つめて、改善策を見いだす。
- ・「公の財産」としてのシステムの確立を図る。
- ・ニーズをしっかり見つめ、応えられるサービス・システムを確立する。
- ・高度情報社会のマルチメディアに対応できるシステムを確立する。

第2分科会

テ ー マ：音声情報

企画担当：録音委員会

視 点：第1分科会と同じ

具体的テーマ：

DAISYについて（各施設に、対応が可能か、予算は可能かなどのアンケート調査を行う）

デジタル録音図書集中処理センターについて

4. 第45回全国盲人福祉施設大会（松江市）

(1) 全体討論会

6月19日（木）13：40～16：30

テーマ：「盲人福祉施設の問題点と改善方策」

各部会を代表する11名による提言集を各施設に配布済み。当日持参のこと。

(2) 事業部会

6月19日（木）16：40～17：40

平成9年度事業計画について、NAIIV第11号、第12号をもとに進める。

(3) 分科会 (第1分科会 点字出版・情報サービス関係)

6月20日(金) 15:10~17:00

テーマ: 「視覚障害者と情報提供施設」

(1) 点字の普及について

(2) これからの視覚障害者情報提供施設の役割とあり方について

司会進行: 京都ライトハウス点字出版部 山本 たる 氏

熊本県点字図書館 館長 西田 洋一 氏

提言者: カトリック点字図書館出版部 高橋 秀治 氏

「点字出版とパソコン点訳

- 読者(利用者)に活用される出版・図書館の課題を探る - 」

日本ライトハウス盲人情報文化センター館長 川越 利信 氏

「『視覚障害者情報提供施設』への脱皮」

= 日 程 =

18日 (水)	16:00~19:00	全視情協 運営委員会
19日 (木)	9:00~10:15	部会長会議
	10:30~12:30	理事会・評議員会
	12:30~13:10	受付
	13:10~13:30	オリエンテーション・開会
	13:40~16:30	全員参加による討論会 「盲人福祉施設の問題点と改善方法」
	16:40~17:40	各事業部会
	18:00~	夕食
20日 (金)	7:00~8:30	朝食
	9:00~10:30	講演「障害者プランの課題と推進方策について」 (日障協 常務理事 藤井克徳氏)
	10:40~12:00	講演「戦後における盲人運動史について」 (日盲連 会長 村谷昌弘氏)
	12:00~13:00	昼食
	13:00~14:00	特別講演「小泉八雲について」 (島根県立女子短大 小泉凡氏)
	14:10~15:00	講演「障害者福祉の動向と盲人福祉施設」 (厚生省社会参加推進室)
	15:10~17:00	分科会 第1分科会「視覚障害者と情報提供施設」 (1) 点字の普及について (2) これからの視覚障害者情報提供施設の 役割とあり方について」
	18:00~20:00	夕食懇親会(全員参加)
21日 (土)	7:00~8:30	朝食
	8:50~9:50	各事業部会報告
	9:50~10:40	分科会報告
	10:50~12:30	第45回全国盲人福祉施設大会

5. DAISY報告

河村宏氏（録音委員会DAISY担当）の報告に基づき、以下の点で合意した。

- （１）DAISYコンソーシアムに継続参加する。
- （２）コンソーシアム負担金が3か年の総額で12万ドル必要なので予算確保の対策が必要である。
- （３）日本障害者リハビリテーション協会に対して全視情協とともにコンソーシアムの会員登録を要請する。そして、リハ協のノーマネットと「視覚障害者情報ネットワーク」をリンクさせたい。
- （４）8月23日～24日にコンソーシアムの会議が開催される。組織・財政等、最終の確認が目的。日本からも、河村宏氏とともに、全視情協、リハ協の代表が参加の予定。
- （５）フィールドテスト
全視情協加盟施設のうち希望施設に配付する。また、製作に興味を持つ、関係非営利団体には河村氏よりサンプルを提供する。

6. サービス状況の調査報告について

サービス委員会では、14回行った実態調査の総括をまとめ、NAIIV（8月発行予定）で報告をし、また、9月の帯広大会で発表の予定。

7. 全視情協大会開催会場視察、基本打ち合わせ

企画委員会の最後の検討事項として、開催予定会場の視察をした。その会場で、プログラム進行等についての検討を行った。

8. JBS日本福祉放送による生中継放送について

JBS日本福祉放送では日盲連大会、日盲社協大会などと同様、全視情協大会を生中継放送の予定である。全国各地で、衛星放送、CATV、有線放送等により、全視情協大会の様相を聞くことが可能。

第23回 全国視覚障害者情報提供施設大会 開催要綱（案）

目 的 進展する高度情報化社会にあつて、視覚障害者が入手しうる情報は極めて制約されており、一般社会との情報格差はますます拡大しつつある。一方、視覚障害者のニーズは多様化し、即時性が強く求められている。
このような激変する情報環境を踏まえて、視覚障害者のニーズに対応するために「視覚障害者情報ネットワーク」を早急に構築して、情報提供施設間の相互協力を強化し、情報サービスの一層の充実を期する。とともに、資格認定制度の検討、情報通信等に関する技術習得等、施設従事職員の資質向上を図り、もつて視覚障害者の社会参加促進ならびにノーマライゼーションの実現に資することを目的とする。

（ 後日、修正・加筆予定）

主 催 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会
全国視覚障害者情報提供施設協議会

主 管 全道視覚障害者情報提供施設協議会
社会福祉法人 北海点字図書館
日本赤十字社北海道支部点字図書センター

後 援（予定） 厚生省
文部省
北海道・帯広市
各報道機関・社会福祉関係機関
社団法人 日本図書館協会
社会福祉法人 日本盲人福祉委員会
社会福祉法人 日本盲人会連合
全国盲学校長会

期 日 平成9年9月25日（木）、26日（金）

会 場 北海道ホテル
〒080 帯広市西7条南19-1
TEL 0155-21-0001 FAX 0155-25-3721

事務局 第23回全国視覚障害者情報提供施設大会事務局
〒080 帯広市東2条南11-3 北海点字図書館内
TEL 0155-23-5886 FAX 0155-24-6098

第23回 全国視覚障害者情報提供施設大会 日程（案）

9月24日（水）	
13:00~17:00	運営委員会
9月25日（木）	
10:00~12:00	施設長会議
12:00~13:00	受付
13:00~13:40	開会式（開会の辞、歓迎の辞、オリエンテーション）
13:40~17:00	分科会 テーマ：視覚障害者情報ネットワーク・システム 第1分科会 点字情報 第2分科会 音声情報
17:00~18:00	休憩・チェックイン
18:00~20:00	夕食・懇親会
20:00~21:30	書誌データ管理システム学習会（自由参加）
9月26日（金）	
7:00~ 8:00	朝食
9:00~10:00	部会、各委員会、各ブロック活動状況、各分科会、 ワークショップ等の報告
10:00~10:10	休憩
10:10~12:00	フォーラム 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	フォーラム 再開
15:00~15:20	閉会式（閉会あいさつ、次年度開催地あいさつ）
16:00~18:00	自主参加プログラム 技術入門講座 1 パソコン入門 2 マルチメディア入門
18:00~19:00	夕食
19:00~21:00	技術入門講座 再開

集中処理センター構想について

録音委員会委員長 村井崑人

情報提供施設の多様化

昨年の全点協岡山大会で点字図書館の名称を消すことに対しての異論が提起された。図書館として十分な仕事できていない現実を考えると図書館という名称を消すべきではない、という意見だったように受け取っている。名称変更についての賛否は別にして、各地域にいる視覚障害者の現状を考えると、図書を提供するだけの機能に限定することにも自ずから限界があるのではないかと思われる。最近、例としてよく取り上げられる鹿児島県点字図書館の歩行訓練を例にしても、地域に暮らす視覚障害者のニーズが図書情報のみにとどまっていないことの現れなのではないだろうか。

今後の施設のあり方として、名称に拘束された画一的な業務を行うよりも視覚障害者のニーズに柔軟に対応してゆく姿勢が必要なのではないだろうか。また、施設の業務内容は個々の施設のユニークさを持った展開を期待したいものだと考えている。

情報提供手段について

こうした施設機能の多様化の兆しが現れつつある現状で、従来の情報提供施設に共通する製作部門にも大きな変化の兆しが見えつつある。「てんやく広場」に代替されるパソコン（以下、PCと略す）を使った点訳、言い換えればデータ化、デジタル化である。そして、てんやく広場ではデータのデジタル化と並行して通信を使ったネットワークが形成されたことに大きな意味がある。すなわち、視覚障害者であっても、PCさえ使えれば、誰の手を介することなく自分の読みたい本を自分で探し、自分で読むことのできる環境が整ったことである。

「てんやく広場」に加入している個人会員は全国で約200名とまだまだ少ない。PCを使いこなせる視覚障害者が一部でしかない、あるいはPCの購入価格が高いなど、加入者の少ない原因は容易に想像できることである。しかし、インターネットなどの世界規模の情報入手を考えた場合、この通信による情報入手は非常に有効な手段である。こうした情報入手への対応のた

めに、視覚障害者への点字教室と同様に各施設が視覚障害者向けのPC教室を行ってもよいのではないだろうか。

録音図書の場合もデジタル化を行うことで、てんやく広場と同様通信を使つての図書情報の入手が可能となる。現在の通信回線の速度、さらに音声の記録に必要なメディア容量を考えると、今すぐとは言えないまでも将来への可能性が大きく広がる。

デジタル録音図書

録音部門でもこのPCを使ったデジタル化が具体化しつつある。それは一昨年から大会で取り上げている、PLEXTALK（プレクストーク）とDAISY（デージー）である。PCを使った録音用のソフトは各種市販されているが、現在のところ1枚のCD（シーディー＝コンパクトディスク）で53時間の長時間の記録ができるのはDAISYだけである。また、純粋に全文検索はできないものの、特定の部分をマークすることで目次、索引などが容易に活用できる。これは従来のカセットテープでは特に不得手とされたもので録音図書の使い勝手の面で画期的な進歩と言えよう。

また、PLEXTALKとDAISYは車でいえば両輪の関係にある。プレーヤーとしてのPLEXTALKは最終製品を目指して、現在フィールド・テストが行われている。フィールド・テストの途中ではあるものの、ユーザーの声を取り入れた改良品のデザイン等もすでに検討されており、サイズもA4サイズ程度のコンパクトなものになりそうである。



車輪の片一方を担っている製作ソフトとしてのDAISYはまだ問題部分が含まれてはいるものの、セミプロフェッショナル・バージョンとしての完成品Ver1.0はすでにできあがっている。先日開かれた録音委員会では全視情協加盟施設への配布を決め、具体的な配布方法については5月31日～6月1日に開催される企画委員会の承認を経た後、各施設へご案内する予定である。

デジタル化への道

このまま順調に行けば、順風満帆といえるのだろうが、デジタル化には大きな問題が含まれている。その問題とはデジタル化への各施設の取り組みがまちまちになるのではないかという懸念である。ご存知の通りイギリスのR

NIBなどに代表される中央施設を中心としたサービス形態の諸外国とは異なり、日本での視覚障害者への情報提供サービスは各地方自治体への依存性が高く、施設は各都道府県に散在する。国の地方分権が進む現状から考えると、自治体単位で個々の施設に対する補助金等にかかなりの格差が生まれることが予想される。Aという施設では平成9年度の備品購入費はゼロであるということも聞いている。新規の機材購入については寄付に依存する施設も多いと聞いている。このような状況のもとで事業拡大とも思われるデジタル化に向けて計画的に新規予算を獲得し、増員を図ることが可能なのだろうか。

録音委員会でもこのような話が交わされている。以下は録音委員会で検討が行われているデジタル化の問題点である。

複数メディアの提供の必要性

現在はカセットテープに代表されるアナログ方式からMDに代表されるデジタル方式への移行の過渡期である。

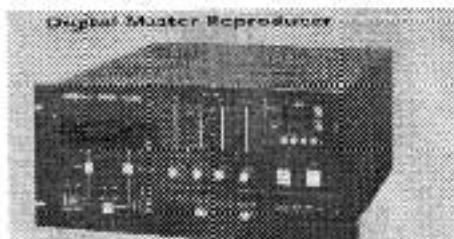
私たちが視覚障害者に提供するメディアもこの過渡期においては利用者の手持ちの再生機を考えると、従来のカセットテープと新しいメディアとしてのCD（場合によってはMDも……？）の複数媒体による提供が必要となる。製作および窓口の業務もこの複数媒体を扱うことで仕事量の増加につながるのではないだろうか。また機材面でも新たな機材の購入が必要となる。

※パソコンを使った録音システムは一台30万円～50万円程度必要。（従来のカセットテープデッキを使つてのセットの約10倍）

※デジタル録音図書を直接カセットにコピーするシステムとしてはオタリ社が海外向けとして製品化しているが、同時にカセット3巻をコピーするシステムで約350万円。

※ 製作資材としてのCD-Rは現在実売価格600円程度であるが、生産量の拡大で400円台に価格は下がる。（CD1枚には52時間程度の録音が可能であるが、タイトル1枚の使い方をすれば、現在のカセット1タイトル分の価格とほぼ同等になる）

※CD-R（レディット） ライトワンスといわれるように一匹だけ書き込める可能なCD。



OTARI社のDP-33（写真左）とDP-4050F（写真右）

デジタル録音されたデータをカセットテープにコピーするためのシステム

図書の遡及デジタル化

製作される図書と並行して、過去の資産を生かすために遡及によるアナログ図書のデジタル化が必要である。

分割されたテープを1枚のCDに収めるために編集が必要になる。この際にはテープに含まれるノイズなどの処理も行う必要がある。この作業に当たる人材はどのように確保できるのだろうか。

※新たなボランティア養成が必要。

録音機材に対する知識

パソコンを録音機として使うことで、従来のアナログ録音機の知識とは全く異なる、パソコンについての知識が職員、ボランティアともに必要とされる。DOS（ドス）、Windows（ウィンドウズ）などのOS（オーエス＝オペレーティングシステム）の知識、ハードの知識の習得が必要。

※サポートのための組織づくりあるいはボランティア確保が必要。



テープデッキの操作感覚に近づけるために試作された、DISY ミキシングアンプ（RE-100）とコントロールパッド（RE-10）。

PCと接続して使用される。

集中処理センター構想

仮に各施設が機器を導入できたとしても、その維持と運用に関しては新たな人員確保とともに、ボランティアの養成などが必要とされる。

冒頭にも述べたが、各施設が今後も画一的に機材を導入して製作して行くことが本当に得策なのだろうか。次ページに示した「視覚障害者情報ネットワーク」は「デジタル音声情報システム促進委員会」と意見を交えながらまとめた、集中処理センターを中核とした新しいネットワーク構想である。各ブロックに集約処理センターをおき新規図書の製作、過去の録音図書の遡及デジタル化を行うことにより、他の施設は製作から解放される。（地元からのニーズに対応するための製作力は必要であるが）著作権処理を行うことで、一般公共図書館からの購入にも対応させる。図書貸し出しなどの画一的な業

務は公共図書館への依存を増やす。このことは職員に時間的なゆとりを持たせることにもつながり、サービスエリア内の個々の利用者に対して、よりきめ細かなサービスを行うことができるのではないだろうか。

センターを新たに設置するのか？それぞれのブロック内の特定施設がその役割を担うのか？まだまだ、内容的には細部にわたって検討が必要とされる部分が多い。ただ、今回の録音図書のデジタル化を機会としてネットワークのあり方を再検討する時期に来ていることは事実であり、もし対応ができなければ施設として存続することが困難になるのではないだろうか。

問題提起を含めて、集中処理センター構想を紹介させていただきました。是非皆様のご意見をお伺いできればと考えています。

参考資料

日本メディア工業界が5月15日に発表した記録メディア製品の1996年国内需要調査の実績をみると、96年のオーディオカセットテープが前年比13%減の2億9,300万巻、録音用のMD（ミニディスク）が208%増の3,081万枚であったという。数字からみればMDの占める割合はまだ1割であるが、伸び率からみればMDの普及が顕著に進みつつある。

国内需要の検証結果（カッコ内は前年比）		1995年	1996年	
オーディオカセットテープ（百万巻）	推定実績		310(92%)	
	実績値	336	293(87%)	
録音用MD（千枚）	推定実績		28,000(280%)	
	実績値	10,000	30,810(308%)	
デジタルオーディオテープ（千巻） （DAT、DCC）	推定実績		2,100(95%)	
	実績値	2,210	2,170(98%)	
コンパクトディスク（百万巻）	推定実績		280(102%)	
	実績値	274	281(103%)	
ビデオ用カセットテープ（百万巻） （8ミリCセット、ミニDVセット）	推定実績		41(91%)	
	実績値	45	39(87%)	
フロッピーディスク（百万枚）	推定実績		450(90%)	
	実績値	500	432(86%)	
MO	3.5型（千枚）	推定実績	7,600(130%)	
		実績値	4,750	9,300(196%)
	5.25型（千枚）	推定実績		600(128%)
		実績値	470	570(121%)
CD-R（千枚）	推定実績		5,300(235%)	
	実績値	2,000	5,300(235%)	

ブロック活動報告

東北・新潟・北海道ブロック

山形県立点字図書館
館長 磯野 任巳

= 平成 8 年度活動報告 =

平成 8 年度ブロック会議

日 時 平成 8 年 9 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金)
場 所 山形市十日町 ホテルキャッスル
参加者 視覚障害者情報提供施設長・職員及び点訳・音訳等のボランティア
計 330 名

会議概要

当ブロック会議は、従来から職員のほか、ボランティアも一緒に参加しての、研修会を兼ねたものとして開催しており、初日は施設長会議、図書館部会、点訳奉仕部会および朗読奉仕部会の 4 部会に分かれて、視覚障害者情報提供施設運営の諸問題の研究討議および情報交換等を行いました。特に点訳奉仕部会におきましては、日盲社協情報サービス部会 点訳委員会の水谷吉文氏を、朗読奉仕部会におきましては、神奈川県ライトセンターの姉崎久志氏を助言者に迎えてご指導いただき、有意義な研修会となりました。翌日は一般教養的な講演と各部会の報告を行い、終了しました。

当ブロックの会議は、技術的な問題の研究討議や情報交換が主流の、研修会的な要素を含んだものとして運営されており、今後もボランティアを含め、実務担当者のレベルアップにつながるような会の運営をしてまいりたいと考えています。

= 平成 9 年度活動計画 =

平成 9 年度ブロック会議予定

日 時 平成 9 年 8 月 28 日 (木) ~ 29 日 (金)
場 所 秋田市中通
秋田ビューホテル
参加者 視覚障害者情報提供施設職員、点訳奉仕者、音訳奉仕者

関東ブロック

カトリック点字図書館
館長 橋本 宗明

= 平成 8 年度活動報告 =

(1) 総会

日時 1996年5月28日(火) 13:00~13:50
会場 かながわ県民センター
内容 イ. 1995年度活動報告・決算報告の承認
ロ. 1996年度活動計画(案)・予算(案)の承認
ハ. 会費値上げ等について
ニ. 会長人事の輪番制導入後のブロック割りについて
ホ. 15周年記念事業について

(2) 研修会

春期研修会

日時 1996年5月28日(火) 14:00~16:00
会場 かながわ県民センター
内容 「どこまで広がるプライベートサービス(2)」
~さまざまな可能性を求めて~
発表者 田中文人氏(町田市立中央図書館)
間嶋和子氏(神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団)
大八木麗子氏(神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団)

秋期研修会(宿泊)

日時 1996年11月7日(木)~8日(金)
会場 つくばグランドホテル・茨城県自然博物館
内容 全体会1 「ロービジョンについて」
講師 久保明夫氏(国立身体障害者リハビリテーションセンター)
全体会2 「障害者と博物館」
講師 中川志郎氏(茨城県自然博物館 館長)

分科会

- 1 「ロービジョンに対するサービスのあり方」
発表者 三浦一男氏(霊友会法友文庫点字図書館)
- 2 施設長会議
総会時の懸案事項、その他情報交換

(3) 役員会等

第1回役員会

日時 1996年5月28日(火) 11:00~12:00
会場 かながわ県民センター
内容 1995年度活動・決算報告
1996年度活動計画(案)・予算(案)
総会時の懸案事項
役員・拡大事務局員の推薦
15周年記念事業について
情報交換

第2回役員会(文書連絡)

内容 研修会の検討・当日の役割等

拡大事務局会議

役員会と同時開催(内容省略)

= 平成9年度活動計画 =

(1) 総会の開催(年1回)

日時 1997年5月14日(水) 13:00~14:00
会場 カトリック点字図書館
内容 1996年度活動・決算報告
1997年度活動計画(案)・予算(案)の審議
その他

(2) 研修会の開催(年2回)

春期研修会

日時 1997年5月14日(水) 14:00~16:00
会場 カトリック点字図書館
内容 講演 「読書環境 過去・現在・未来」
講師 橋本宗明(カトリック点字図書館 館長)
施設見学(日本カトリック会館)

秋期研修会(宿泊)

日時 1997年11月27日(木)~28日(金)
会場 甲府市内
内容 未定

(3) 役員会・拡大事務局会議の開催(年2回程度)

役員会

第1回	日時	1997年5月14日(水) 11:00~12:00
	会場	カトリック点字図書館
	内容	1996年度活動報告・決算 1997年度活動計画(案)・予算(案)の審議 その他
第2回	日時	1997年9月頃(未定)
	会場	未定
	内容	秋期研修会等

拡大事務局会議は、日時・会場・内容ともに役員会と合同のため省略。

なお、会長施設輪番制の導入にともない、1997・98年度をカトリック点字図書館が担当することとなった旨お知らせします。

中部ブロック

視覚障害者生活情報センターぎふ
館長 藤野 克己

8県・15館で構成。年間予算規模は約20万円。

=平成8年度活動報告=

1. 施設長会議ならびに職員研修会

期日	平成8年9月12日(木)~13日(金)
主管	点字図書館「明生会館」
会場	三谷温泉・松風園
参加者	13館・43名
内容	(1) 施設長会議(平成7年度事業報告・決算、平成8年度事業計画・予算、平成9年度事業計画骨子・予算概要、役員改選、情報交換など) (2) 点字担当職員研修会(点訳例文集、「点訳のてびき第2版」で改正される箇所、観光ガイドブック分担点訳、研修テーマ) (3) 録音担当職員研修会(DAISYについて、今後の研修会の持ち方) (4) 合同研修(DAISYについて)

2. 職員研修会ならびにボランティア研修の集い

- 日時 平成8年6月28日(金) 10:30～16:30
主管 福井県視力障害者福祉協会点字図書館
会場 福井市市民福祉会館
参加者 職員10名、ボランティア172名 合計182名
内容 (1) サービス担当職員研修会(各施設におけるサービス業務の課題、
研修テーマ)
(2) 点訳ボランティア研修会(図表の点訳)
(3) 音訳ボランティア研修会(音訳の配慮事項)

3. 「てんやく広場」への取り組み

中部ブロックとして引き続き取り組み、10箇所のプリンティング・センターが拠点となって、ホストへのアクセスを行った。なお、平成9年度～10年度のブロック長に金森義忠・名古屋盲人情報文化センター所長、副ブロック長に藤野克己・岐阜訓盲協会点字図書館長を選出し、藤野の運営委員長就任に伴い、新たに長谷川了示・福井点訳友の会会長を選出した。中部ブロックとしての「てんやく広場」事務局を引き続き、名古屋盲人情報文化センターが担当している。

4. 録音図書製作着手情報の交換

中部ブロック各施設が製作に着手した録音図書および完成した録音図書の情報を事務局(名古屋盲人情報文化センター)に提出し、毎月1回「着手及び完成図書情報」を発行した。

実績(平成8年9月11日現在)

着手図書 1,499タイトル

完成図書 8,977タイトル(1,551タイトル増)

5. 「中部通信」の発行

ブロックの機関誌として、「中部通信」(点字・墨字)を発行し、情報ならびに意見交換の場として活用した。なお、平成8年度から各施設持ち回りで企画・編集・製作を行うこととし、第22号および第23号が富山県視覚障害者福祉センターの担当で発行された。

= 平成 9 年度活動計画 =

1. 施設長会議ならびに職員研修会

期 日 平成 9 年 7 月 17 日 (木) ~ 18 日 (金)
 主 管 富山県視覚障害者福祉センター
 会 場 呉羽ハイツ (富山市内)
 内 容 (1) 施設長会議
 (2) 点字担当職員研修会
 (3) サービス担当職員研修会
 (4) 合同研修

2. 職員研修会並びにボランティア研修の集い

期 日 平成 9 年 6 月 27 日 (金)
 主 管 視覚障害者生活情報センターぎふ
 会 場 視覚障害者生活情報センターぎふ
 岐阜市婦人会館
 内 容 (1) 録音担当職員研修会
 (2) 点訳ボランティア研修会
 (3) 音訳ボランティア研修会

3. パソコン基礎講習会の開催

「てんやく広場」を広く活用するため、通信を中心としたパソコン基礎講習会を開催する。実施に当たっては、名古屋盲人情報文化センターを中心に企画し、各施設のニーズに応じた研修プログラムによって行う。

4. 「てんやく広場」に関する事業

パソコンを使った点訳により、利用者に速く資料を提供するとともに、データをホストに登録して全国の共有財産として相互利用を進める「てんやく広場」の事業を、引き続きブロックとして積極的に推進する。また、中部ブロックとしての「てんやく広場」事務局を名古屋盲人情報文化センターに引き続きお願いし、ブロックとして足並みをそろえてこの事業に取り組む。

5. 録音図書製作着手情報について

引き続き、着手および完成図書の情報を交換し、重複製作の防止および録音図書の相互利用を促進する。なお、前年度に引き続き、この事業の事務局を名古屋盲人情報文化センターにお願いする。

6. 「中部通信」の発行

第 24 号・第 25 号を、石川県視覚障害者情報文化センターの担当で発行する。

近畿ブロック

日本ライトハウス盲人情報文化センター
村井 晶人

= 平成 8 年度活動報告 =

録音製作委員会

- 第 1 回 4 月 1 7 日 (水)
- 第 2 回 6 月 1 9 日 (水)
- 第 3 回 8 月 2 8 日 (水)
- 第 4 回 1 0 月 2 日 (金)
- 第 5 回 1 1 月 1 5 日 (金)
- 第 6 回 1 2 月 1 9 日 (木)
- 第 7 回 平成 9 年 2 月 1 9 日 (水)

活動内容

加盟各施設の情報交換

アンケート実施にあたっての項目の検討・集計・評価

ボランティア研修会 (1 1 月 1 5 日)

・後援会「視覚障害者と放送」

講師 恵美三紀子氏 (J B S 日本福祉放送)

・分科会 (点字・録音)

図書館サービス委員会

- 第 1 回 5 月 1 5 日 (水)
- 第 2 回 7 月 1 0 日 (水)
- 第 3 回 9 月 1 1 日 (水)
- 第 4 回 1 1 月 1 3 日 (水)
- 第 5 回 平成 9 年 1 月 2 4 日 (金)
- 第 6 回 3 月 1 2 日 (水)

活動内容

加盟各施設の情報交換

ワークグループ検討会

講演会 (1 1 月 1 3 日)

「メガネをかけても普通の文字が見えなくなったら」

講 師 株式会社大活字 市橋 正晴氏

会 場 日本ライトハウス盲人情報文化センター

シンポジウム (1 月 2 4 日)

「障害者における図書館ネットワークを考える」

発表者 川上氏 (横浜市立中央図書館)

佐藤氏 (埼玉県川越図書館)

会 場 滋賀県立図書館

9 6 年度視覚障害者サービス実態調査中間報告

= 平成 9 年度活動計画 =

月	活動内容	会場
4	録音製作委員会(23日)	ICCB
5	図書館サービス委員会(7日) 総会(14日)	神戸点字図書館 ICCB
6	録音製作委員会(11日予定)	未定
7	図書館サービス委員会(9日) 近畿視情協夏期研修会(30日-31日)	未定 和歌山
8	録音製作委員会(13日予定)	未定
9	音訳指導技術講習会開講(4日) 図書館サービス委員会(10日)	ICCB 未定
10	運営研究会・役員会(9日10:00~) 録音製作委員会(8日予定)	ICCB 未定
11	第18回ボランティア研修会(20日) 図書館サービス委員会(12日)	ICCB 未定
12	録音製作委員会(10日予定)	未定
1	図書館サービス委員会(21日)	未定
2	職員研修会/録音製作委員会(11日) 役員会(26日10:30~)	未定 ICCB
3	図書館サービス委員会(11日)	ICCB

(注: ICCBは、日本ライトハウス盲人情報文化センター)

中国・四国ブロック

ライトハウス・ライブラリー
館長 金津 和栄

= 平成 8 年度活動報告 =

平成 8 年度 中国四国点字図書館連絡協議会

総会・施設長会議・職員研修会

日 時 平成 8 年 5 月 30 日 (木) ~ 31 日 (金)
主 管 愛媛県視聴覚福祉センター
参加人数 26 名

内 容 (1) 役員会

(2) 施設見学 (愛媛県視聴覚福祉センター)

(3) 総会 永年勤続職員等の表彰
平成 7 年度事業報告及び収支決算
平成 8 年度事業計画及び収支予算
平成 8 年度新役員

(4) 講演「お年寄りのあれこれ」
講師 特別養護老人ホーム第二権現荘
所長 吉田 擴氏

(5) 施設長会議
職員研修会 (点訳部会)
パソコン点訳の問題点と改善策
ボランティアの研修会参加費用の援助

(6) 全体会議

= 平成 9 年度活動計画 =

1. 平成 9 年度中国四国点字図書館連絡協議会

総会・施設長会議・職員研修会

日 時 平成 9 年 6 月 5 日 (木) ~ 6 日 (金)

主 管 岡山県視聴覚障害者福祉センター

会 場 メルパルク岡山

内 容 (1) 施設長会議・総会
1 平成 8 年度事業報告・決算報告
2 平成 9 年度事業計画案・予算案
3 デジタル録音への取り組みについて
4 市町村社協等の朗読入門講座のテキストについて
(2) 職員研修
1 朗読ボランティア育成について (情報交換)
選考基準・初級講習内容・修了基準
初級修了者のフォロー・定着率・実働率
2 講義 「録音製作とデジタル化について」
講師 日本ライトハウス盲人情報文化センター 村井晶人氏
3 講演 「男女共同参画社会における実現に向けて」
講師 岡山県女性政策室長

2. てんやく広場のブロック会議

日 時 未定

主 管 岡山県視聴覚障害者福祉センター

九州ブロック

熊本県点字図書館
館長 西田 洋一

= 平成 8 年度活動報告 =

九州ブロックでは、現在 13 施設が加盟の組織として運営、活動を行っております。

平成 8 年度の主な事業報告としましては、平成 8 年 4 月に理事会を熊本県点字図書館で開き、年次処理のほか、情報交換等意義ある研修ができました。

9 月、沖縄県点字図書館で、第 10 回九州点字図書館大会を開催いたしました。ボランティア、職員、関係者、約 260 名が海と太陽の島・沖縄に集い、10 回の節目の大会にふさわしい盛会な大会となりました。

大会終了後、職員研修会を部門別に関き、当面する諸問題について研修をし、情報交換を行いました。

12 月、熊本県点字図書館で、プレクストークのフィールドテストに関する説明会を、シナノケンシの宇都氏を迎えて開催し、9 点協担当施設職員・利用者が参加する中で、今後のデジタル録音図書への関心を深めるとともに啓発に努めました。

平成 9 年 1 月、福岡県点字図書館で、情報サービス委員会の職員研修会を開き、「てんやく広場」を活用した業務への取り組みの現状を分析し、技術面での研修を図る一方、今後への対応について検討しました。

= 平成 9 年度活動状況 (4 月期) =

平成 9 年 4 月、福岡県春日市に完成した素晴らしい施設、クロバープラザ内に移転設置された福岡県点字図書館で、新年度恒例理事会を開催し、施設見学を含め、年次処理の他、今年度活動計画について討議がなされ、有意義な会議をもつことができました。

また、「全点協」が「全視情協」に改称されたことを受けて、ブロック会としての名称についても討議が行われ、状況の推移を見ながら、随時検討する方向を確認しました。

同日、「てんやく広場」の組織再編にともない、九州地区の「広場ブロック会議」を発足させ、中央情勢を報告する一方、情報サービス委員会の研修の中に、広場研修の内容も併せて持つよう検討しました。

= 平成 9 年度活動計画 =

第 11 回九州点字図書館大会 (9 月、福岡県点字図書館)

部門別 (点訳、音訳) 担当職員研修会

情報サービス研修会

新刊録音図書情報交換

